

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：13201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K13068

研究課題名(和文)ロシア社会における移民の非移動性と境界維持

研究課題名(英文)Migrant immobility and boundary maintenance in Russian society

研究代表者

堀江 典生(Horie, Norio)

富山大学・研究推進機構 極東地域研究センター・教授

研究者番号：50302245

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：ロシア社会において移民労働者たちは、ロシア社会が移民達に向けられるゼノフォビアや国粹主義的な感情のなかで非移動性を強いられ、隔離を経験している。移民労働者たちは、自らを守るためにロシア社会と距離をおき、また、ロシア市民もまた彼らとの境界を維持しようとする。本研究は、そうした隔離、集住、わなが移民側から、もしくは、受入社会側からどのような社会的実践をもって境界を維持しているのかを明らかにした。本研究課題では、特に、移民たちが働き、集住し、隔離されている場としての市場(いちば)や仕事場に注目した。彼らの境界維持は社会的に構築されたものであり、その社会的実践を観察し、境界維持のあり方を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Migrant workers face immobility and enclosure in Russian society due to the rise of xenophobia and nationalistic feeling towards them, and the migrants are divided from the host Russian society. Migrants keep their boundary against the host society and the local citizens also maintain the boundary against migrants. This research revealed how the enclosure, enclaves and entrapment was structured by their social practices. The project targeted market-places and their workplace where they work, are enclaved, and enclosed. The boundary maintenance of the community or their enclave are socially constructed, and this project observed the social practices to maintain the boundary.

研究分野：移民研究

キーワード：ロシア 移民 境界維持 外国人労働者

1. 研究開始当初の背景

ロシアを中心としたポスト・ソビエト空間の移民動態は、移民の磁場となったロシアを世界第二位の移民大国に押し上げた。現在、ロシアは中央アジア移民を労働市場に吸収しつつも、増大する移民の権利保護とロシア社会に発露した反移民感情との間の相克に悩まされている。ロシア労働市場における就労と移動の監視、居住地区の集中・隔離、市民・公官庁による嫌がらせや暴力による移民の権利の剥奪などの事実を観察するなかで、非移動性と境界維持の視点で移民たちの、もしくは、ロシア市民の社会的実践を質的調査からあぶり出し、移民たちとロシア市民との境界の脱実体化に向けた研究を行う必要があると判断した。同様の関心を持つフィンランドおよびロシアの研究者との研究連携を行い、国際共同研究のもと本課題に取り組むことで、本研究の着実な実施が可能になった。

2. 研究の目的

本研究課題では、ロシアにおける中央アジア移民、特に最も脆弱な存在である労働移民に注目し、ロシア市民が、中央アジア労働移民に対して構築する境界の維持の手段と方法、中央アジア労働移民がロシア社会の中が構築する境界の維持の手段と方法を、質的調査をもとに分析し、中央アジア移民の移動(mobility)/非移動(immobility)の視点から彼らのロシア社会における隔離(Enclosures)、集住(enclaves)、わな(entrapment)を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究を構築する理論は、非移動性と境界維持(Boundary maintenance)の視点である。非移動性の社会学は、移民とホスト国社会との境界をより明確にする概念としてグローバル社会のなかで集住社会を生み出す「非移動性」を提供している。移動が活発になったボーダレス社会のなかで、逆に移民達の集住社会が生み出す、もしくは、ホスト国社会が移民たちを囲い込む境界が、何によって構成されているかが重要な研究の焦点になっている。ロシア社会におけるそうした境界を維持する装置は、移民政策、市民の反移民的感情とその実践的発露、文化的差異の実践的発露、移民の自己防衛的社会的実践、ディアスポラの社会的実践であったりするわけだが、その境界は必ずしも間主観的に構築されているわけではなく、一方的にホスト社会側から、もしくは移民達から構築されている可能性がある。境界維持活動を社会的実践としてとらえ、移民、移民の家族、ホスト国市民への質的調査から移民とホスト社会の境界を構成する要因と境界維持活動のあり方を探り、間主観的に捉えられている境界の脱実体化を試みる。本研究は、そうしたアプローチを下敷きにし、その協会活動が行われる現場

におけるフィールドワークによる質的調査をもとに、立体的な境界維持の社会的実践を描くことを目標とした。

4. 研究成果

本研究が、非移動性と境界維持の視点から移民労働者たちが働き、集住し、隔絶された現場を観察するという方針に則って、本研究では特にロシアの大都市における市場(マーケット・プレイス)や就労現場(例えば、建築現場)に着目したフィールドワークを実施した。

なぜ、そうしたローカルな場に注目するのかをまず説明しよう。移民たちが暮らし働く場所を明確に地域住民から隔てる壁や門などは、移民たちを空間に封じ込める力をもつし、同時に、移民たちの安全をも守る力がある。もちろん、そうした境界が地域住民や移民たちにとって好むべきものであるかどうかは、定かではない。移民たちを大量に受け入れながらも、決して地域住民と移民たちの双方が移民たちの混在する社会のあり方に適応できていないとき、双方を隔てる境界は、物理的な壁やゲートとなって現れる。フェンスや門によって閉ざされたコミュニティのあり方は、なにも移民たちばかりのものではない。私たちの日常生活においても、コミュニティ資格者だけでない入れないマンションなどは、「Gated Community」として描かれうるだろう。もともと、この「Gated Community」は、高所得者、いわば「セレブ」が自分たちの居住空間を地域住民から隔絶させたものである。受け入れ国の底辺社会に生きる者として描かれる移民たちもまた、地域住民から自ら距離を置いたり、また、地域住民側から距離を置いたりする形でこうした閉ざされた空間を形成する。移民たちが集住する地区は、移民たちの集住地区(ethnic enclave)や「移民ゲッター」として描かれてきた。他者から隔絶され物理的な境界や門やフェンスの背後の制約された空間に生きる暮らしを、Brunn (2006)は「閉ざされた暮らし(Gated Lives)」と表現し、そこでの他者からの厳しい偏見やステレオタイプ、受け入れがたい排除を反映した彼らの姿勢を「閉ざされた心匠 Gated Minds」と表現した。物理的な障壁に着目しながら、その内外で生じる境界の維持にかかわる社会的実践を丹念に描きたい。私のフィールドワークにおける試行錯誤は、そこに主眼がある。

サンクトペテルブルク市の建設現場でのフィールドワーク調査は、本課題の想定に挑戦的な成果を提供した。移民労働者たちは、故郷を離れロシアで働く。単独で仕事を探し、単独で暮らす移民労働者たちもいるが、ロシアで手取り早く働き、安心して暮らすには、同郷人のサポートが必要となる。そこには、彼らが集い、暮らし、働く場所がある。こうした場所から労働移民の問題を考える必要があるからこそ、建築現場は格好の観察対象

となる。ロシアにおける建設現場は、移民労働者が就労する場であるとともに、彼らが集住する場でもあるからである。

質的調査の前提となる「調査上の問い」には一定の仮説がある（メリアム/シンプソン、p.23）。2017年にサンクトペテルブルク市で起きた地下鉄爆発事件で自爆テロ容疑者となったのは、キルギス南部オシ生まれのウズベク系移民とされている。自爆テロ事件直後、住民のテロへの危機感が高まるなか、中央アジアからの移民達に向けられる視線に移民達は不安や圧力を感じているとの報道があった。サンクトペテルブルク市でも、移民が関わる事件はしばしば新聞で取り上げられる。それゆえ、調査を始める際の仮説は、市民と移民たちを隔てる境界がより強固になり、その境界維持活動が市民と移民たち双方から活発に行われているのではないかとの仮説である。帰納法的に結論を導き出すフィールドワークによる質的調査法では、仮説の証明以上に仮説の裏切りがより興味深い結論を導き出す。本調査においても、当初の仮説は裏切られることになった。

2015年のロシアの移民法の改正は、中央アジア諸国からの労働者に簡易な労働許可の制度として労働パテントの取得を義務づけた。この制度は、移民労働者に最低限のロシア語能力とロシア国内法の遵守に必要な法知識とロシア社会に適應するためのロシアの文化・歴史の修得を試験により義務づけるとともに、労働パテント代金を支払えば容易に事実上の労働許可を得ることができるというものであった。建設現場の中央アジアからの外国人労働者たちは、現在では労働パテントを容易に取得し、その労働パテントが身分証明書代わりになり、以前によく見られた警察による嫌がらせは見られない。また、すでに長くロシアでの就労を繰り返してきた中央アジアからの外国人労働者にとって、彼らがロシア社会から自らを守るために建築現場に集住するよりは、より快適に暮らし働くための住居を獲得しており、そうした環境に関する情報の共有がかなり進んでいることが、本調査においても明らかになった。境界維持活動として、建設現場を囲む壁を境界として身構える移民たちの風景は和らぎ、境界解消が進んでいるようにも観察できたことが、本調査における新たな発見であったと言える。

一方、市場（マーケット・プレイス）を中心としたフィールドワークでは、中央アジア諸国からの移民労働者たちが働くロシア・ヨーロッパ部の大都市と中国人がかつては多数派だったシベリアの諸都市との比較で、より興味深い観察を行うことができた。中央アジア諸国からの移民労働者たちが働くロシア・ヨーロッパ部の大都市の市場では、カフカスおよび中央アジアからの移民達が集住し働いている。そこは、建築現場と異なり、日中は移民たちと市民が交わる場である。そ

れゆえ、移民たちと市民たちとの接触の現場で衝突が生じやすい。調査においても、市場で働く外国人労働者からの調査者への視線は厳しく、市場という開かれた場でありながら、移民たちの側からの境界維持に係わる実践が生まれ、それが事件に発展し、市民の側からの市場における移民達の占拠が問題視されやすく、ゼノフォビアの温床となる。ところが、シベリアにおけるいわゆる中国人市場は、中国の生活水準の向上から下位職層での中国人の就労がなくなり、市場の経営が地元資本と中国資本との協力によって行われ、市場における労働は、中央アジアからの外国人労働者が担うという市場における諸民族の混成が生み出され、決して高品質ではないが安い商品が流通する市場として市民生活のなかで一定の理解が進んでいる。シベリアのロシア人社会にとって、中国人市場はもはや中国人資本・中国人労働力によるエスニックな市場ではなく、国際的な物流を想起させる市場となっており、中国的なるものを排除しようとする市民側からの境界維持のための社会的実践が著しく減少していると言える。

以上のように、本研究では民族および場（Locality）によって、移民たちとロシア市民との間の境界維持のための社会的実践のレベルが異なり、また、一部では移民法の変化や場へのステークホルダーの関与のあり方により境界が溶解したりコンフリクトの温床になったりすることを提示した。今後、より立体的な境界維持活動のあり方を描けるように、より研究を進めていきたい。

<引用文献>

メリアム、S./E.シンプソン『調査研究法ガイドブック』ミネルヴァ書房、2010。

Brunn, S. 2006, Gated Minds and Gated Lives as worlds of Exclusion and Fear, *GeoJournal*, Vol. 66, pp. 5-13.

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

堀江典生、「ロシアにおける出稼ぎ労働お規制とその背景」、『ユーラシア研究』、査読無、53、2015、72-74。

Хорие, Н. и К. Григоричев, Эволюция китайских рынков в Сибири: пересборка «китайскости» и открытие «закрытых» локальностей, ред. В. Дятлов, К. Григоричев, Этнические рынки в России: пространство торга и место встречи, 査読有, Иркутск: Изд-во ИГУ, 2015,

pp. 141-158.

Horie N., *Позиционирование приграничных районов Дальнего Востока России в экономической и социальной структуре региона: происходящие перемены*, журнал «ЭКО», 査読有, 3, 2017, pp. 21-36.

DOI: 10.1080/10611991.2017.1416835

堀江典生, 「労働市場にみるロシアの経済危機対応力とその限界」, 『ロシア・ユーラシアの経済と社会』, 査読無, 1007, 2016, pp.2-15.

Horie. N., *The Positionality of Russian Far Eastern border regions, Problems of Economic Transition*, 査読無, 59, 2017, pp.753-767.

堀江典生, 「壁の向こう側：中央アジアから来た建築労働者たちの労働と暮らし」, 『ユーラシア研究』, 査読無, 57, 2018, pp. 27-31.

堀江典生, 「海外に活路を見いだす出稼ぎ労働者たち：その暮らしと故郷との絆」, 『ウズベキスタンを知るための61章』, 査読有, 2018, 近刊。

〔学会発表〕(計 12件)

堀江典生, 「人の移動から見たロシアの現状と展望」, 国際情勢研究所ロシア研究会(招待講演), 2016.

堀江典生, 「ロシアが抱える移民問題」, 天理大学国際学部特別講演(招待講演), 2015.

Horie. N., *Chinese market evolution in Siberia: Reshaping Chineseness from below*, International scientific-practical conference “Migration process in the Asia-Pacific region: history, modernity, practices of interaction and regulation”(招待講演), 2015, Vladivostok.

Horie. N., *Expatriates and migration policy in Russia*, International conference “Evolution of international trading system: Prospects and challenges”, 2015, St. Petersburg.

Horie. H., *Russian Far Eastern borderlands and their positionality in migration*, International scientific-practical conference “Migration bridge in Eurasia (招待講演)”, 2015, Stavropol.

Horie. N., *Chinese agricultural workers in the Russian Far East*, ICCEES World Congress, 2015, Makuhari.

Horie. N., *Foreign investment, land grabbing and migrant labor force: A lesson from Russian Far East*, International conference “Evolution of international trading system:

Prospects and challenges”, 2016, St. Petersburg.

Horie. H., *Foreign investment in agriculture and migration in Russian Far East borderlands*, International scientific-practical conference “Migration processes: Migrants’ adjustment and integration issues (招待講演)”, 2016, Stavropol.

Horie. N., *Soybeans and Chinese farmers in the borderlands of the Russian Far East*, 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム『中国とロシア・北東アジアの断層線：百年にわたる競争的協力』, 2017, 札幌。

Horie. N., *Migration in Northeast Asia 1: The former Soviet space*, HOPS & SRC Border Studies Summer School, 2017, Sapporo.

Horie. N., *Migrant workers and their contribution to community maintenance*, International conference: Community maintenance in periphery, 2017, Okinawa.

Horie. N., *Chinese land deals and migration in the Russian Far East: Positionality changes in the borderlands*, British Association for Slavonic and Eastern European Studies, 2018, Cambridge.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀江 典生 (HORIE, Norio)

富山大学・研究推進機構極東地域研究センター・教授

研究者番号: 50302245

(4) 海外研究協力者

ヴィルクネン・ヨニ (VIRKKUNEN, Joni)

University of East Finland

フライヤー・ポール (FRYER, Paul)

University of East Finland

リヤザンツェフ・セルゲイ (Ryazantsev, Sergey)

Institute of Socio-Political Research, Russian Academy of Science